

「夢の新薬？」

厚生労働省が11月16日、中央社会保険医療協議会にて、2017年2月に新型のがん治療薬「オプジーボ」の薬価を半額にすることを提案し、了承された。オプジーボは、がん細胞を直接攻撃せず、免疫の働きを促す「がん免疫療法薬」である。2014年に、皮膚がんの新薬として世界に先駆けて日本で承認され、昨年12月には肺がんで追加承認された事がニュースで報じられたのは記憶に新しい。注意しなければならないのは、全ての患者に有効な「夢の新薬」ではない、ということだ。しかし、国としては、副作用が出る頻度が治療の段階では少ないがん治療薬として、推進していく方針なのだろう。

私自身が3年前に親しい友人を胃がんで亡くした。胃を全摘しても元気に日常生活を送っていたため、亡くなる直前まで回復を信じて疑わなかった家族や友人たちに、訃報の知らせは衝撃だった。もし、この薬が彼女の胃がんにも効いていたら、と強く思う。

「夢の新薬」とまではいかななくても、がんが治るかもしれない、と期待させてくれる新薬や治療法が更に拡充すること、そして、いつの日にか、どのがん患者にも有効で副作用がなく、安全な治療や新薬が開発されることを願ってやまない。(H)